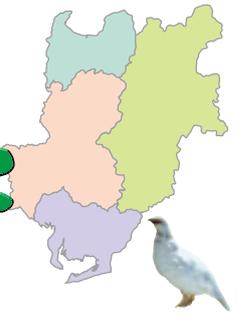




国民の森林・国有林

広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>



COP10初日（10月18日）に田名部政務官が林野庁展示ブースを視察されました

COP10生物多様性条約第10回締約国会議

林野庁も生物多様性の 保全をテーマにブース展示

(P7に関連記事)

主な項目	○ COP10について	P2
	○ 関係機関と植生復元現地検討会を開催	P3
	○ 風景紀行「入笠山」	P8

**生物多様性条約
第十回締約国会議(COP10)inHanoi
COP10ブース展示**

十月十一日から二十九日にかけて生物多様性条約第十回締約国会議（いわゆる「COP10」）が開催されています（十月十一日から十五日にかけては生物多様性条約のバイオセーフティーに関するカルタヘナ議定書第五回締約国会議（いわゆる「MOP5」）との位置づけです）。これは、一九九七年（平成九年）に京都で開催された気候変動枠組条約第三回締約国会議に並ぶ国内で開催される大きな国際会議です。

COP10では名古屋国際会議場において各国の代表者で会議等が行われる一方、その他の各種イベントが開催されます。十月十八日には、同会場内においてサイドイベント（講演会）が開催され、田名部政務官が冒頭の挨拶をされるとともに、古久保国有林野部長が「国有林野の生物多様性保全方策」について講演されました。また、近隣の白鳥会場等を中心に生物多様性保全をキーワードとした



サイドイベントでは田名部政務官が挨拶されました



田名部政務官に中部局の取組を説明される城土局長

展示（生物多様性交流フェア）等が行われます。生物多様性交流フェアには農林水産省の展示ブースが設置され、その中で林野庁が取り組む生物多様性の保全をテーマとしたPRを行っています。国有林が取り組んでいる森林の管理がどのように生物の多様性保全に役立っているのかとの視点で展示ブースを出展したものです。

◆COP10開催の経緯

一九九二年にリオ・デ・ジャネイロ（ブラジル）で国連環境開発会議（いわゆる「地球サミット」）が開催され、生物多様性条約や気候変動枠組条約が採択されました。気候変動枠組条約については、一九九七年に京都で第三回締約国会議（COP3）が開催され温室効果ガス抑制対策のあり方を定めた「京都議定書」が採択されました。

生物多様性条約については、二〇〇二年にハーグ（オランダ）で第六回締約国会議（COP6）が開催され、「現在の生

物多様性の損失速度を二〇一〇年までに大きく低減させる」との二〇一〇年目標が採択されました。そして、節目となる第十回目が名古屋で開催されることとなりました。

◆COP10での議題は？

このCOP10では、遺伝子組換え生物にかかる国際的なルールについての検討など様々な事項について議題となりますが、やはり森林管理に関することとしては「生物多様性の保全と持続可能な利用に向けた二〇一〇年以降の各国共通の行動計画を定める」ことが大きなテーマといえます。

◆国有林の取組

日本国内では平成二十年に生物多様性基本法が制定、平成二十二年三月には生物多様性国家戦略が策定されるなど、生物多様性の保全に向けた方針が示され、国有林としても「国有林野の管理経営に関する基本計画（全国計画）」に生物多様性の保全を明記するなど積極的に対応しているところです。もちろん、全国計画に則して中部森林管理局は森林計画区ごとの計画を策定し、それを遵守しつつ森林の管理経営を行っていくこととしています。

国有林では、森林における生物の多様性の保全と持続可能な利用を図る上では、流域等の一定の面的な広がりの中で、樹種や林齢等の異なる様々なタイプの森林が、それぞれ時の経過とともに様々な



中部局からは檜皮茸模型の展示も

行事・会議等の予定

- ◎国有林野等所在市町村長有志連絡協議会
 - 11月8日 松本市
 - ◎長野市環境ごどもサミット
 - 11月13日 長野市
 - ◎名古屋シティ・フォレスト事業
 - 11月13日 愛知所管内
 - ◎署長等会議
 - 11月17～18日 中部森林管理局
 - ◎森林ふれあい講座
 - 11月6日 東濃署管内
 - 11月27日 愛知所管内

信州環境フェア2010のPR活動について

「企画調整室」自然豊かな信州の地で暮らす県民・NPO・事業者・行政が手を取り合って、地球温暖化防止などの取組みを推進し、持続可能な社会を構築する契機とすることを目的に「信州環境フェア2010」が長野市のビッグハットで八月二十一、二十二日に開催されました。

中部森林管理局は長野林政協議会（長野県林務部・中部森林管理局）の一員として職員が参加し民有林と国有林の連携による森林づくり等をPRしました。

今年で十回目の本イベントは長野林政協議会として三年目の参加となり、回数を重ねるごとに参加内容に工夫をこらしてきました。今年の長野林政協議会のブースでは、特に体験コーナーを拡充し、ボールを落としてコンクリート・鉄・木材の堅さの違いを観察するコーナーや、モモやプルーンなど実のなる木を削って作った手のひらサイズの工作物を手にとってもらい木のぬくもりを感じてもらおうコーナーなどを設けました。子供連れの家族を中心に大勢の方々に実際に触れたり感じたりすることで五感に訴えることができました。また、森林の働きなどを紹介するパネルを展示しましたが、より興味を持っていただくためにパネルの内容をふまえたクイズを行

いました。「長野県の森林面積は全国で何番目でしょうか」、「長野県の森林機能の価値をお金に換算するといくらになるでしょうか」など、ちょっと頭をひねる問題に大人から子供まで楽しく取組んでいただけでした。

今後も地球温暖化防止のための間伐の推進や木材利用など、民有林と国有林の取組や連携について関心を持っていただけるよう長野県の協力のもと積極的に活動していくこととしています。



コンクリート、鉄、木材にゴルフボールを落とすと跳ね方が違います。どれが一番かたかな？やわらかいかな？

関係機関と植生復元現地 検討会を開催

日本の秘境 ～雲ノ平～

「富山署」当署では平成二十年度から薬師岳・雲ノ平国有林野保護管理協議会、雲ノ平山荘と協働で、東京農業大学の下鳴助教による指導の下、アクションプログラムとして「雲ノ平植生復元事業」を実施しています。

中部山岳国立公園内の雲ノ平（標高二、四〇〇～二、七〇〇m）は、北アルプス最奥地に位置し、日本最高所にある溶岩台地上に広がる広大な雪田草原で、高山植物の宝庫です。雲ノ平は、どこから入山しても当日中にたどり着くことが困難であることから日本の秘境と呼ばれています。この秘境の雲ノ平も、近年、木道が整備されてきましたが、整備を行う以前から登山者等により踏圧された箇所を中心に、雨水等の浸食による高山植生の裸地化が広がっていました。

本年度は、本事業三ヶ年計画の最終年度であり、過去二ヶ年における実施状況とその成果を確認するとともに、今後の高山帯における植生復元のあり方について検討するため、局署職員のほか、東京農業大学、雲ノ平山荘、環境省レンジャー、富山県自然保護担当者、富山市担当者（大山総合行政センター）にも参加をいただき、九月十四日から十七日にかけて現地検討会を開催しました。



現地検討会（日本庭園）



植生復元作業（崖箇所処理）

現地では、植生復元実施箇所である雲ノ平周辺の通称「日本庭園」、「雷岩」を視察し、意見交換会を行い、洗掘された箇所（崖）の処理方法やGISによる位置の把握、造園的手法を取り入れた植生復元方法などについて意見が交わされ、来年度以降もモニタリングを含め未実

施箇所について継続して実施していくことが望ましいとの認識で一致しました。

また、今まで行った植生復元事業の三ヶ年についてはとりまとめを行い、中部森林技術交流発表会等で公表する予定です。

各地からのたより

木曽川上下流交流の

「木曽川・森づくりin赤沢」を開催

【指導普及課】

「木曽森林環境保全ふれあいセンター」

九月十一日、森林整備を通して木曽川上下流住民の交流を図る「木曽川・森づくりin赤沢」が赤沢自然休養林と周辺の林内で実施されました。

この日は、下流域の名古屋市及びその周辺地域から十二名、上流地域の木曽とその周辺から個人・団体を含め二十名の参加がありました。

五人程で六班を編成し、午前・午後と三班ずつ分かれて、間伐と森林散策を行いました。九月半ばを迎えるというのに夏の猛暑が続き、慣れないノコギリによる間伐に、参加者は汗を流していました。

森林散策では、地元ボランティアを主体とするスタッフの興味深い説明に心を引かれた様子で聞いていました。往路



汗を流しながら間伐作業

は森林鉄道での移動となり、猛暑とは言え川を渡る秋の風に、間伐での汗も忘れる充実した一日を過ごしました。

実施後のアンケートでは、「山づくりの大切さと苦労が分かった」とか、「国有林だからこそこれらの美林が保たれてきた」との意見をいただき実施者として



森林散策の一コマ

満足感と、これからも山づくりを続ける必要性を実感しました。

魚津市片貝小学校四年生に 森林教室を実施

【富山署】九月二日、魚津市の片貝国有林において、地元の片貝小学校四年生十五名を対象に森林教室を開催しました。

これは、魚津市土地改良区が、「農業用水はどこから」とのテーマで、地元児童に森林・発電所・農業用水等の見学を通じて、水や自然環境の大切さをわかってもらおうと企画した用水探検見学会の中で設定されたものです。特に、森林教室については、土地改良区から、上流部の森林が水を育み、良好な自然環境を保全しているとともに、治山事業によって土砂流出防備機能が向上し、生活用水や農業用水などに寄与していることについては、ぜひとも子供たちに学んで欲しいことであると強く協力を要請され、署としてもこの地域の意向に沿うような内容で開催することとしました。

森林教室は、国有林の治山えん堤前の広場で行い、上市森林事務所、片貝治山事業所等の職員が、富山森林管理署の概要や森林の役割の説明を行った上で、治山事業、保安林等について目の前のえん堤を例にしながら説明しま

した。三十分程度と限られた時間ではありましたが、児童たちは、普段立ち入ることのない地元奥地の国有林で、自分たちが普段使っている水の源流地を体験でき、「知らないことをたくさん学べてよかった。自然を大切にしようと思う」と感想を話す児童がいたということで、森林や自然を大切にする気持ち芽生えるきっかけになってくれたようです。



治山事業等について説明を実施

地域発案の推進

地域とともに

美女平遊歩道の魅力アップ

【富山署】富山署は、九月八日、立山杉の巨木が数多く見られる美女平（立山町、風致探勝林指定）の遊歩道において、立山地区保護管理協議会と協働で、立山杉の根の保護等のためのスギチップ

敷設を行いました。立山黒部アルペンルートの美女平駅すぐ近くから整備されている遊歩道は、立山杉の巨木やブナ林などを巡ることができ、旅行雑誌の富山紹介においてはたびたび掲載されるスポットとなっています。

近年、この遊歩道が表流水等により洗掘され、立山杉の根が傷んだり、泥がたまつてぬかるみとなり入林者が歩道の脇を踏み歩く箇所が多く見られるようになりました。このため、富山署では、「地域発案」としてこの問題に取り組むこととし、環境に極力負荷を与えない効果的な手法を検討した結果、保育間伐等による地元林内のスギ材を原料としてチップを製作し、この地元産一〇〇%のチップを傷んだ遊歩道箇所に敷設すること、このための作業を地域やボランティア等の協力を得ることにより地域の意識として実施することを発案しました。

昨年度は、保護管理協議会と協働で



間伐材の運び出し作業（官行造林地）



チップ敷設作業（美女平風致探勝林内遊歩道）

チップ敷設の実施にこぎつけることができ、地元からも、遊歩道利用者からも、「とても歩きやすくなった」、「環境にも景観にもマッチしている」と好評をいただいています。

二年目となる今年も、チップの原料については、美女平の麓にある立山町内の官行造林の保育間伐実施地を選び、敷設予定日の数日前に、林地内での玉切り、林道への運び出し、チップパーシュレッダーでのチップ化、袋詰め、美女平までの運搬などの準備をフォレストサポーターズの協力により行いました。

スギチップ敷設の当日は、あいにくの雨天にもかかわらず、地元の舟橋立山町長が自ら作業を行いたいと表明して参加をいただいたほか、保護管理協議会のメ

ンバー、フォレストサポーターズ、一般ボランティアの参集を得て、バケツリレー方式によるチップ詰袋四百五十袋の運搬、七〇区間のチップ敷設を無事行うことができました。チップ製作から敷設まで延べ百十四名の参加をいただき、地域発案の実現を一步進めることができました。

親子のエコ登山ツアー in 白馬

「中信署」九月十九日に、山と溪谷社八十周年記念事業である日本山岳遺産キャンペーンの二〇一〇年イベント「親子のエコ登山ツアー in 白馬」（中信森林管理署後援）が、長野県北安曇郡白馬村内の白馬山国有林及び八方尾根自然研究路で二日間行われました。

このイベントは、山の自然やそこで育まれた文化の素晴らしさを後世に残し、次世代に伝えていくことを目的とし、親子でトレッキングや美化活動を行うもので、五組十一名が参加しました。また、一日目の八方尾根自然散策では、平成二十二年度グリーンパトロールの田中隊長と尾近白馬森林官が同行し、散策やゴミ拾いを行うなかで自然の素晴らしさを説明しました。

当日は、爽やかな秋晴れで歩道から白馬三山や五竜岳はもとより戸隠連峰、浅間山なども見渡すことができ、親子そ

ろって大自然を満喫していました。また、田中隊長から散策時にグリーンロープの役割や高山植物保護等について説明があり、参加者は真剣に聞き入っていました。散策後は、拾ってきたゴミの中身を見ながら、グリーンパトロール活動を通じての山のゴミ事情について話をしました。中でも参加者はゴミの内訳や順位に興味を持ち、鉛の袋が一番多い理由を聞いて納得していました。最後に、隊長から「登山の際はゴミを持ち帰ることにより多くの人が美しい山を楽しめるようにしましょう」という言葉で締めくくりました。



山のゴミ事情について話を聞く参加者

秋の阿寺溪谷を満喫

（ウォーキング等を楽しむ）

「南木曽支署」九月二十六日「信州の名水・秘水認定記念阿寺溪谷ウォーキング」が阿寺国有林で開催され、大桑村内外から家族連れや若いグループ、年配の方々約九十余名の参加がありました。

この大会は阿寺溪谷でひととき美しい「美顔水」が信州の名水・秘水に認定されたことを記念し、大桑村観光協会が主催し、各種ボランティア団体や大桑村、木曽地方事務所及び当支署が協働する中で開催されたものです。

美顔水のいわれは「その昔、木曽の山林を管理するためにやってきた尾張の国の役人たちの奥方が、朝に夕に、この水で顔をあらったところ、みちがえるほど美しく色白になった」と伝わる名水です。



美顔水（美しく色白になるとのいわれも）



ウォーキングを楽しむ参加者

この阿寺溪谷沿線は地元の要望をふまえて、支署と大桑村や地元ボランティアと協働して景観の整備をしたところでした。

整備により溪谷の美しさや「美顔水」のPR活動をした結果、阿寺溪谷へ訪れる観光客も急増傾向にあります。

当日は、好天に恵まれ、汗ばむ陽気に参加者は自分のペースで約七キロメートルのウォーキングをしながら、溪谷の撮影や、植物観察をしたりしながら、昼頃には終点のキャンプ場に到着。午後からはネイチャーゲームで、秋の阿寺溪谷を満喫しました。

参加者からは「相変わらず美しい」「紅葉の時期に友人とまた訪れたい」等の感想がありました。

今後もこういった国有林を活用したい

ペント等は、地域や関係機関の連携を大切にしながら積極的に取り組んでいくこととしています。

「地元NPOとNCF隊員が

歩道整備を通じて交流」

第十一回名古屋シティ・

フォレスター事業

「東濃署」九月十五日、加子母裏木曽国有林内にある木曽ヒノキ備林において、第十一回名古屋シティ・フォレスター事業（以下、NCF事業）を開催しました。

木曽ヒノキ備林では昭和二十六年～三十四年頃まで森林鉄道を使用して運材されており、現在はその跡地の一部が遊歩道として整備されていますが、大雨等により洗掘されている箇所があるため、NCF事業による改修を計画したものです。

今事業については、企画の段階から地元ボランティア団体である「NPOつけち」に協力をお願いしました。

「NPOつけち」は以前から地元活性化やPRを目的とした活動をされており、東濃地域の財産である付知峡の山々を守りたいとの思いから、平成二十年には当署と協定を結び、国有林内で遊歩道整備等の活動をされています。

当日はNCF隊員十八名、「NPOつけち」からは早川理事長をはじめ八名の



整備前の洗掘された歩道

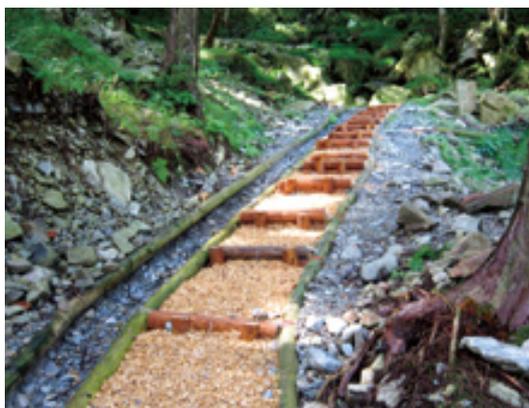


整備を行う隊員の皆さん

スタッフが参加、当署からも署長以下七名が参加し、総勢三十四名の賑やかな事業となりました。

荒れた歩道に間伐材を利用した階段と水路を設計し、砂利と木のチップを敷き詰めるまでの作業を隊員とスタッフが協力して行い、順調に進むかと思われた矢

先、空には徐々に暗雲が広がり、昼からは雨の中の作業となりましたが、全員の協力により四〇分ほどの立派な遊歩道が完成しました。



完成した歩道（大雨が降った後でも洗掘されていませんでした）

片付けもそこに予定を切り上げで下山し、集合写真は道の駅で撮ることとなりましたが、帰りに地元の温泉に入るなど、隊員の皆さんには楽しんでいただくようでした。

「NPOつち」早川理事長からは、挨拶の中で「こうした活動に参加出来て大変ありがたい。今後も協力していきたい」との言葉をいただきました。今回の事業で、NCF事業の活動と地元NPOの活動をお互いに知り合う良い機会となりました。

今後ともNCF事業に限らず、地域や協定団体等と連携して、様々な活動に取り組んでいきたいと考えています。

熱田区民まつりに参加

「名古屋事務所」九月十二日の日曜日、名古屋市熱田区の区民まつりが開催されました。名古屋事務所からは地元のみつりということであり、今年で三度目の参加となり、パネル展示と木の枝を使ったストラップ（モックン）づくりを行いました。



ストラップ（モックン）づくりは大人気

厳しい残暑のなかにもかかわらず大勢の家族連れや友達同士、お子様から年配の方まで参加があり賑わいました。

名古屋事務所では、地域のイベントへ積極的に参加し、森林づくりの取組や国有林のPRに努めています。熱田区の皆さんとの繋がりを深める機会となりました。

シリーズ 現場最前線

日々のミーティングで危険を排除し安全作業

岐阜森林管理署 七宗森林事務所班

当班の現場となる七宗国有林は、岐阜県下呂市と白川町との行政界に位置しており、尾張藩所領であった元和元年から四百年近い歴史を地域住民とともに歩んでいます。

国有林の八割は水源かん養保安林に指定され、下流域の重要な水源林となっているほか、ここから生産される人工林ヒノキは、昭和四十一年以降「東濃ヒノキ」として根強い人気を築いています。

班員は臨時を含めて二人。林道の維持・修繕や歩道修理、林分調査、境界巡視などを行っています。日々のミーティングでは、どんな些細な業務でも「危険はないか」を確認し、丁寧に効率の良い作業計画を立てながら労働災害の防止に努めています。近年、「ヤマビル」の活動が顕著に見られ、多いときは一日に二十匹以上張り付かれることもあります。そのため、休憩時に衣服を確認し合うことが多くなりました。危険因子は作業場所毎に変わりますが、二十二年間続いている無災害を継続させていくためにも、現場との連絡・調整を密にして業務に励みたいと思います。



境界管理業務を行う職員

人のうごき

中部森林管理局人事

十月一日付

▽企画調整室企画調整係（大臣官房総務課国会班国会第一係）

矢部 博文

▽飛騨森林管理署業務第一課経営係（飛騨署古川森林事務所）

源田 聡子



入笠山

〔南信署〕 入笠山は富士見町と伊那市に跨る標高一、九五五メートルの山で、南アルプスの一部です。南アルプスとは違って、甲斐駒ヶ岳や北岳などと違い、草原やのどかな放牧風景が広がり山頂近くまでゴンドラが延びており、子どもや初心者でも気軽に登山を楽しむことができます。

またなんとと言っても、山頂は八ヶ岳、奥秩父連峰、富士山、南アルプス、中央アルプス、北アルプスと日本の屋根が連



入笠山山頂

なる360度の大パノラマが広がっていることです。

入笠山は、高山植物の宝庫と呼ばれるほど花の種類が多く、四季折々の花々が訪れる人を楽しませてくれます。春の訪れは遅く、五月に入りようやくザゼンソウが顔を出します。六月、雨に煙る湿原を埋め尽くすように咲くスズランは八〇万株以上とも言われています。スズランというと普段目にするものはヨーロッパ産のドイツスズランですが、入笠山に自生するものは日本スズランで葉の下に隠れるように咲く小さな花が特徴です。日本固有のスズランの群生は珍しく、多くの方が訪れます。花の開花に合わせてマイカー規制が行われるため、登山者は車を気にすることなくゆっくりと散策を楽しむことができます。この季節には、クリンソウやレンゲツツジ、ズミなど本格的な夏の始まりを感じさせます。七月・八月上旬まではクサレダマ、オミナエシ、ヤナギラン、マツムシソウ等々最も花の種類が多く、二週間ごとに咲き変わって違った景色を見せてくれます。秋の訪れも早く八月下旬ともなれば、湿原に風が立ち、エゾリンドウやノコンギクが花の季節の終わりを告げます。

入笠山は、ゴンドラ駅から御所平駐車場あたりまでの一帯に林間、湿原、草原が存在するために植物の種類が非常に豊富なことで知られています。また、真夏の太陽の下で咲き誇る花も、霧や雨の中

に幻想的に浮かぶ花もそれぞれの美しさで魅了します。

冬の季節、夏の花の美しさから神秘的な雪山へと姿を変えます。現在、密かなブームとなっている「スノートレッキング」。今までクロスカントリーでしか行けなかった場所へスノーシューで行けるようになったことから、冬の山へ出かける人が多くなってきました。入笠山は、ゴンドラを利用すれば往復三時間ほどで雪山を楽しむことができます。山頂からの景色も冷たく澄んだ空気の中、山々の白い稜線が神秘的な輝きを見せます。



上：スズラン
下：ヤナギラン

◆アクセス

《所在地》長野県諏訪郡富士見町

伊那市

○車でお越しの場合（マイカー規制あり）

中央道諏訪南ICから富士見パノラマリゾートまで約七分

富士見パノラマリゾートからゴンドラ利用で約十分

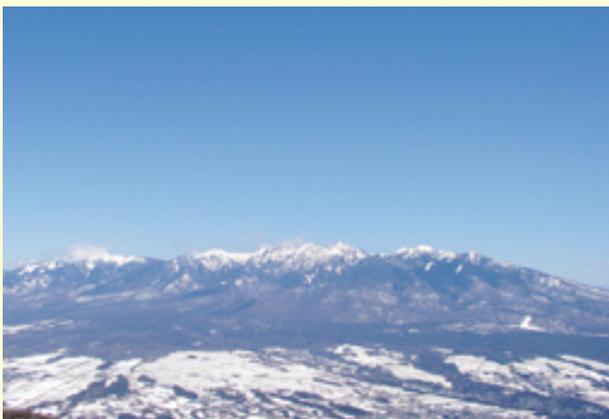
○公共交通機関をご利用の場合

JR 中央線富士見駅で下車し、タクシーで約二十分

なお、マイカー規制中は富士見駅から富士見パノラマリゾート行き無料バスが運行。



入笠湿原



見晴台から八ヶ岳を望む